

- c. 他動詞起源の換喩構文: Amanda *burned the stove black*. [Levin 1993]

(34) self 構文

- a. 自動詞起源の換喩構文: He *slept himself sober*. [Jespersen 1962: 311]
 b. 他動詞起源の通常の self 構文: Finishing his drink Machensen eased himself *off his bar stool and went to the telephone to report to the Werwolf*. [F. Forsyth, *The Odessa File* (1972)]
 c. 他動詞起源の換喩構文: The book with which he read himself to sleep.

[Jespersen 1962: 311]

Yagi (1977) は、結果構文をとる動詞をリストしている: beat, boil, flung, frighten, jerk, know, laugh, lay, paint, pump, rip, scare, shout, slip, stare, steam, stretch, tick, wear, wedge, whip. 次の(35)の例は Jackendoff (1990: 238) は容認されないとする。

- (35) a. *It *snowed* the roads slippery.
 b. *It *rained* the golf course useless.
 c. *It *thundered* the children awake.

同様に Levin & Rappaport Havav (1995: 39) も

(36) は容認されないという。

- (36) a. *During the spring thaw, the boulders *rolled* the hillside bare.
 b. *The snow *meltd* the roads slushy.

このような現象をどう説明するかが論争になった。

そもそも結果構文は、理論的には「非対格仮説」(unaccusative hypothesis)、「非能格仮説」(unergative hypothesis) が言語内に存在し、英語が

非対格・非能格を文法形式によって表出する言語であることの証拠として論じられたという経過がある⁵⁾。この点を少し説明しておく。

英語の自動詞構文には、2種類あって、本来的に他動詞であったものが主語を欠くために本来は目的語であった名詞句 (NP) が主語の位置に来た場合 (これが非対格動詞) と、本来的な自動詞で最初から目的語をもたず、主語の位置にある NP は本来的に主語であるという場合 (これが非能格動詞) がある。このような格の呼称は本来の「能格」とは違った性質のものであり、誤りであるという指摘が Van Valin (1990) にあるが、ここでは関係文法や生成文法で英語について一般的に言われる呼称に従う。

- (37) a. The girl danced.
 b. The door opened.

(37a) では dance は対応する他動詞構文がないから非能格動詞であり、open は John opened the door. という他動詞構文があるから、非対格動詞である。結果構文との関係で言えば、(35)(36) のような文が容認されないのは使われた動詞が非対格動詞であるからであるというのがその主張である。⁶⁾

非対格動詞は目的語の位置に *itself* をとることはできないが、これは、自動詞と他動詞の両方の用法がある動詞が自動詞構文をとりながら目的語をとるという矛盾を起こしているから容認されないのである。従って、結果構文は、

- (38) But he knew he would *shiver himself* warm and that soon he would be rowing. [E. Hemingway, *The Old Man and the Sea*]
 のような純粋な自動詞 (いわゆる非能格動詞) は

4) 次の例の *as it was* は、前述の内容を受けて「そんなわけで」の意味で使われている。成句とされる *as it is* の過去形である。この形と区別するためにおそらく *as it were* のかわりに *as it was* が使われにくいと思われる。

(i) Without Champion, probably not one rabbit would have got back to Efrafa. *As it was*, all his skill as a patroller could not bring home half of those who had come to Watership. [OED2, s. v. patroller (1972)]

(ii) Mr. Truman has only to recall the "hopeless" campaign of 1948 to remember what a loyal partisan he was and the first experience of Mr. Kennedy with Congress would have been sadder than it was had not Mr. Sam been there. *As it was*, his absence because of his final illness was a blow to the administration. [Brown B03 30-1]

5) この部分の記述は Van Valin (1990: 255f.) によるところが多い。

6) 結果構文がしきりに議論されてきた背景には、意味が統語関係に反映しているという主張に対する反例としてとりあげられたことに由来する。非対格動詞は受動形 *The door was opened.* と主語の位置が同じであり、項 (argument) の配置が非対格と同じであるのに、非対格構文と受動形は意味的に類似しているとはいいたくないことになる。この点についての議論は今回は詳論する余裕はない。